

本資料の構成要素

この資料において配列・構成した要素は、以下のとおりである。

1	2	3	4	5
月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	はるが きた 2時間（話・聞②） ◎互いの話に関心をもつことができる。（思・判・表 A(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活（生活科）	1 2	1 P0-3 の挿絵を見て、何をしているのか、気づいたことや想像したことを話す。 2 P4-7 の挿絵を見て、気づいたことや想像したことを言ったり、絵の中の人物になりきって話したりする。 3 P8 を教師に合わせて声に出す。想像したこと等を話す。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。（A(1)オ） 【態】進んで友達の話に関心をもち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。

1 月 ——— 学習する時期を月割りにして示している。

2 単元名・教材名・時数・指導目標

—— 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」単元ならびに特設単元については、単元名・教材名を、その他の小単元については教材名を示した。時数は、単元ごとの学習に必要と考えられる所要時数を算用数字で示し、〔知識及び技能〕ならびに〔思考力、判断力、表現力等〕の領域ごとに配当時間を割り振って、総時数「2」のうち（知・技①、話・聞①）のように示している。指導目標は、単元および教材ごとにどんな能力を身につけさせようとするかを指導目標とし、以下のように軽重をつけて示した。（ ）内は、学習指導要領との対応を示している。
◎…その単元・教材が主たる学習場面であり、確実に身につけることが望まれる。

○…主たる学習場面は他にあるが、そこで学習することでそれを支えたり定着させたりすることが望まれる。

・…学習経験として蓄積させる。

指導目標は、「◎」「○」「・」ごとに、〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の順に示した。また、言語活動は■、他教科等ならびに読書活動・ICT活用との関連は☆で示した。なお、「学びに向かう力、人間性等」に関わる目標は、いずれの単元も、学習指導要領 国語における各学年の「1 目標」の(3)を当てるため、記述は省略した。

3・4 時（活動時程）—— 単元ごとに、児童が実際に活動する場面を想定し、学習活動の流れを具体的に示している。学習活動のまとまりごとに算用数字を付し、ときにはその下位項目として「・」を付し、さらに具体的に示している。

活動時程は、学習のまとまりに対応し、その活動が配当時間の何時間目に当たっているかを示している。

5 評価規準

—— 次の三つの観点について設定している。

- ①【知・技】…「知識・技能」の評価。日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っているかどうかを評価する。
- ②【思・判・表】…「思考・判断・表現」の評価。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げているかどうかを評価する。
- ③【態】…「主体的に学習に取り組む態度」の評価。言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしているかどうかについて評価する。この観点に基づく評価では、
 - (1) 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面
 - (2) (1)の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面が求められている。評価規準の設定に当たっては、以下の四つの内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫することが考えられるとされている。
 1. 粘り強さ
 2. 自らの学習の調整
 3. 他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
 4. 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

※「小学校国語の評価の観点等及びその趣旨」も参考にされたい。